

2021年10月26日 千葉県食品ロス削減ネットワーク会議 専修大学 商学部 教授 渡辺達朗

自己紹介



- もともとの専門分野：流通論・流通政策論
- 社会的観点からみた食品のサプライチェーンのあり方を研究する中で、食品ロス削減問題に取り組む
 - ・「循環経済に向けた食品ロス削減の取り組み-サプライチェーン再構築の観点から-」『専修商学論集』No.113, 2021.7
 - ・<https://kjs.acc.senshu-u.ac.jp/sshhp/KgApp?resId=S001872>
- 社会における活動
 - ・農林水産省所管 食料農業農村政策審議会食料産業部会食品リサイクル小委員会座長
 - ・農林水産省所管 食品ロス削減のための商慣習検討ワーキングチーム座長
 - ・東京都食品ロス削減パートナーシップ会議座長
 - ・千葉県食品ロス削減会議有識者委員
 - ・一般社団法人 サステナブルフードチェーン協議会 副会長
<https://www.j-sfa.net/>
 - ・食とサステナビリティに関するコミュニティ「Honeybees' Community (ハニコミ)」の運営 <https://www.honeybeescommunity.com>
 - ・フードロス削減に取り組むコミュニティ「ベジコミ」
https://www.instagram.com/vege_comm/



©Tatsuro WATANABE, Senshu-u

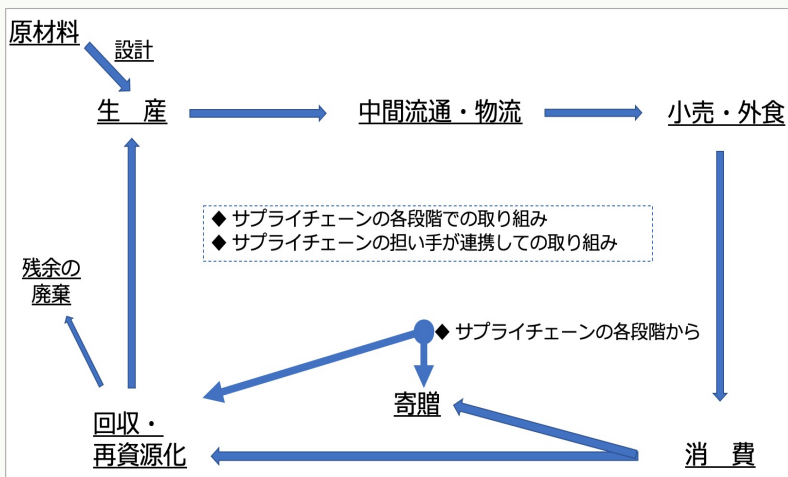
10月食品ロス削減月間・国連WFP協会ゼロハンガーチャレンジにちなんで、産地農家さん、地域飲食店、ゼミ学生のコラボで実施（2021/10/18-20）



1

循環経済に向けたサプライチェーンの再構築

循環経済の概念図



©Tatsuro WATANABE, Senshu-u

4つの取り組み目的

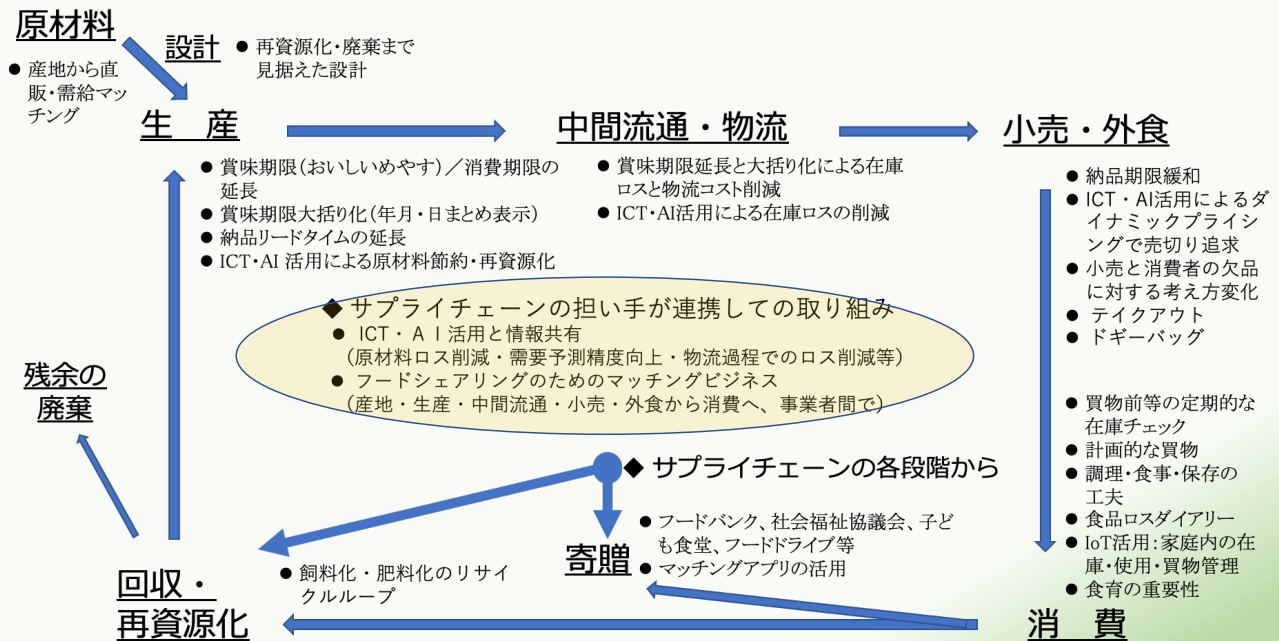
- ① 食品ロスをできるだけ発生させない
- ② 食品ロスの発生前に察知して（再）利用する：寄贈・別ルートでの販売・他
- ③ 発生してしまった食品ロスを再資源化（リサイクル・アップサイクル）：飼料化・肥料化・菌床化・バイオマス発電・他
- ④ 食品ロス発生量とは切り離してCSRとして取り組む

3つの分析レベル

- ① サプライチェーンの各段階における取り組み
- ② サプライチェーンの担い手が連携しての取り組み
- ③ サプライチェーンの各段階から寄贈、回収・再資源化の取り組み

2

代表的な取り組み



3

2030に向けた課題

◆ 「2030半減」はきわめて高い目標で、現状の単純な延長上では困難

□ 事業系では、まずは「できるだけ発生させない」ことにプライオリティがおかれ、次いで、発生前に察知して(再)利用を図ることが追求されている

✓ シェアリング・プラットフォームの活用

- 多数のプラットフォームの存在：利用者はどのように使い分けているのか
- フリマアプリや産直系サイト、クラウドファンディングサイト、ふるさと納税サイトなどでの「規格外品」(らしきものを含む)の扱い増
- 利用者の「葛藤」：どこを使えばより社会貢献できるのか／どこがより「お得」!?

✓ 寄付

- なかなか進まない要因の1つ：寄付のルール(寄付する側の責任の範囲等)の再確認必要
- 寄付者側の企業・ブランドイメージをいかにして守るかも重要
- 企業における寄付の位置付けの違い：規格外品・未利用品を積極的に寄付か、正規品を一定率で寄付するか等
- 注意すべき点：寄付は単純な食品ロス削減の手段ではなく、社会福祉問題

4

□ それでも発生してしまう場合

- ✓ 再資源化：リサイクルとアップサイクル
- ✓ 飼料化・肥料化・菌床化
- ✓ バイオマス発電（ゼロカーボンとの関係で注目）
- ✓ コロナ禍でプラスチック容器等の利用が拡大してことにも注意

□ 家庭系の食品ロス削減

- ✓ 家庭内の在庫管理や計画的な買い物
 - I o Tによる冷蔵庫の在庫管理をはじめとする I C T活用／食品ロスダイアリーの活用
- ✓ 消費者の意識と行動の変化：地球環境の危機を実感する世代、エシカル消費の育成・定着
- ✓ 相互的な消費者教育：家庭内で子から親へ 教室で生徒・学生から教師へ
 - 手前どりをめぐる「小さな争い」：新鮮で安心できるものを食べたい食べさせたい／少しでも社会に貢献したい、倫理的でありたい

□ 都道府県（広域自治体）の役割－市区町村（基礎自治体）の役割

- ✓ 県は市区町村の取り組み情報を集約し、相互に啓発し合うネットワークのノードになる